

久宝寺事業センター

1.事業概要

住所	大阪府八尾市神武町2番35号
従業員数	480名(2021年12月現在)
敷地面積	27,981 m ²



事業内容

久宝寺事業センター(以下、事業所)の発足は、1973年。それまでクボタ創業の地である船出町工場(大阪市内)で生産していた計量機器、自動販売機事業の飛躍的拡大をはかるために、現在の大阪府八尾市へ移転したのが始まりです。1977年には粉碎機器部門が枚方製造所から移管され、以来、計量機器・自動販売機・粉碎機器の3つの事業が当工場の中核を形成してきました。

その後、1985年には電子機器の組立部門が発足。さらに1986年にはK-CADの開発が行われるなど、時代の脚光を浴びるハイテク分野への積極的な事業展開を推進してきました。また2002年には膜事業の関連会社であるクボタメンブレン(株)が転入してきました。

現在では、主に精密機器事業ユニットおよび、その関連会社である(株)クボタ計装関西支社、農業ソリューション事業ユニットのポストハーベスト技術部、そして、環境事業部のリサイクル事業の関連会社であるクボタ環境エンジニアリング(株)、また膜事業の関連会社であるクボタメンブレン(株)の4事業が開発・設計・製造・販売・サービス等の業務を行っています。

主要製品

(1)株式会社クボタ 機械事業本部 精密機器事業ユニット

<標準はかり>



中・大型 台はかり



デジタル台はかり



ホイストスケール



充填機専用型 指示計

<トラックスケール>



トラックスケール



指示計

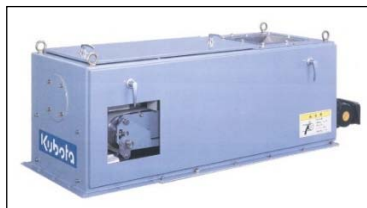
<LPG充填システム>



回転式ACAD型充填機

久宝寺事業センター

<粉粒体供給システム>



ベルトウイングフィーダ



カセットウイングフィーダ



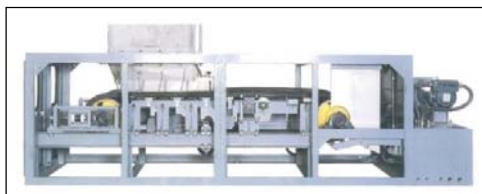
粒体異物選別機

<ピュアウォッシャー>



ピュアウォッシャー

<産業用はかり>



ポイドメータ

(2)株式会社クボタ インplement事業部 農業ソリューション事業ユニット



クリーン精米屋



小型色彩選別機



フルーツセクター

(3)クボタ環境エンジニアリング株式会社



一軸破碎機



縦形回転式破碎機



二軸せん断式破碎機



二軸粗破碎機

(4)クボタメンブレン株式会社



浸漬型膜分離装置



膜カートリッジ

久宝寺事業センター

工場変遷(沿革)

1973年 9月22日	船出町工場より衡器・計量機器、自動販売機事業が移転。
1977年	粉碎機器部門が枚方製造所より移管。
1985年	電子部品組立部門の発足。
1986年	K-CADの開発開始。
1989年	自動販売機部門が竜ヶ崎工場へ移管。
1998年 4月	技術開発本部電子技術センターが転入。
2000年 4月	電装機器事業部FA営業部および(株)クボタ計装関西支社が転入。
2001年 8月	リサイクルエンジニアリング部製造課がクボタリテックス(株)に移管。
2001年10月	FA技術部がFAエンジニアリング部に集約。
2002年 2月	クボタメンブレン(株)が転入。
2002年 3月	技術開発本部電子技術センターが転出。
2002年10月	事業所の名称を「久宝寺工場」から「久宝寺事業センター」に改称。
2002年11月	リサイクルエンジニアリング事業部の技術部、工事管理部門および、環境エンジニアリング事業部の機材課が阪神事務所に転出。
2003年10月	リサイクルエンジニアリング技術第3部の一部が復帰。
2004年10月	ロードセル課と電子機器課がFAエンジニアリング部傘下に編入。
2005年 4月	電装機器事業部のFA営業部とFAエンジニアリング部が分割され、計量機器部と計量システム部が発足。
2006年 5月	環境リサイクル事業部リサイクル技術部門が阪神事務所より転入・復帰。
2007年 5月	環境リサイクル事業部門が再編され、クボタリテックス(株)が解散し、リサイクル事業ユニットとして再発足。
2008年 4月	電装機器事業部の計量システム部と計量機器部が計量システム部に統合。
2008年 8月	膜ソリューション技術部および環境機器開発センターの実験設備を当所に移管設置。
2010年 3月	電装機器事業部の計量システム部、制御システム部およびCAD部が機能別に再編成され、電装機器営業部、電装機器技術開発部および電装機器製造部が発足。
2010年 4月	リサイクル事業ユニットがクボタ環境サービス(株)に統合。
2011年 4月	CAD事業がクボタシステム開発(株)に統合され転出。
2012年 4月	組織再編により、電装機器事業部は精密機器事業ユニットに改称。 膜事業は新設された水処理システム事業ユニットに編入。
2016年 1月	精密機器事業ユニットの制御開発グループを農機技術本部ポストハーベストチームと統合し、ポストハーベスト技術部として発足。
2018年 1月	竜ヶ崎工場(2018年閉鎖)よりピュアウォッシュャー開発・製造部門が転入。 膜事業は環境機器事業ユニットに編入。
2021年 1月	ポストハーベスト技術部は農業ソリューション事業ユニットに編入。
2022年 4月	クボタ環境サービス(株)がクボタ環境エンジニアリング(株)に社名変更。

久宝寺事業センター

2.環境方針

ISO環境方針

久宝寺事業センターの環境方針は、「クボタグループ環境宣言(2012年10月改訂)」に示されている環境宣言及び行動指針に基づいて策定しています。

久宝寺事業センターでは、精密機器事業ユニットおよび、その関連会社である(株)クボタ計装関西支社、農業ソリューション事業ユニットのポストハーベスト部門、クボタ環境エンジニアリング(株)のリサイクル部門、クボタメンブレン(株)がそれぞれ事業運営を行っています。

精密機器事業ユニットはセンサ技術・デジタル技術を駆使して、計量関連製品、異物選別製品等の開発、製造を行い、ポストハーベスト部門は農業関連製品、精米関連製品等の開発を行い、(株)クボタ計装は計量関連製品の販売・サービスを行っています。クボタ環境エンジニアリング(株)のリサイクル部門では、廃棄物のリサイクルに欠かせない破砕機・選別機を製造しています。クボタメンブレン(株)は、汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の製造・サービスを行っています。

これらの事業組織と久宝寺事業センターのスタッフが連携し合い、エネルギー消費の低減、廃棄物の発生抑制と分別による再資源化の推進、環境に配慮した製品・サービスの市場への提供などの環境保全活動を行うとともに、影響力を発揮できる事業全般に亘る項目について環境配慮・改善活動に取り組み、以下に示す「久宝寺事業センター 環境行動指針」に基づき、将来の地球環境の維持・改善に役立つよう、今後とも環境に配慮した企業活動を継続して着実に推進していきます。

【久宝寺事業センター 環境行動指針】

1. 環境関連法規制、八尾市をはじめとする関連自治体の条例等を遵守して、各々の事業がその事業実態に応じた環境改善への具体的な目的・目標を掲げ、その達成に向けて努力するとともに、その実施状況を定期的に評価・見直しを行って継続的改善を推進します。
2. 生産活動に伴って発生する環境に著しい影響を及ぼす項目については自主規制値を設定し環境保全に努めます。更に事業のあらゆる側面で、エネルギー効率やリサイクルのレベルアップを意識し、全員の創意工夫により資源の有効利用と廃棄物の削減に向けた活動を行います。
3. 新製品開発やシステム製品の設計にあたっては、省資源化・省エネルギー化・有害物資の削減・リサイクル率向上・電波障害防止などをできるだけ織り込んだライフサイクルアセスメントを実施し、製品環境負荷の低減に努めます。
4. 製造・サービス活動においては、原材料・部品及び梱包材等の補助材料、設備などの購入にあたっては、より環境に配慮したものを採用するなど、環境保全性を高めるように努力します。また、取引先企業においても、環境保全活動への理解と協力を率先して推進します。

久宝寺事業センター及びクボタグループ会社の全ての人が、それぞれの事業にかかわる環境保全の重要性をよく考え、様々な環境保全活動に前向きに取り組むように、この方針をクボタの従業員、クボタグループ会社の従業員、久宝寺事業センター構内の協力会社の従業員が閲覧可能なものとし、教育、啓発に活用します。また、この方針は、社会への責任を示すため、外部からの要求に応じて一般の人が入手可能なものとします。

改訂7 2022年 7月25日

制定 1999年 1月11日

株式会社 クボタ 久宝寺事業センター所長

ISO認証取得状況

1999年3月	ISO14001(1996年版)を取得
2013年2月	ISO14001(2004年版)で更新
2018年4月	ISO14001(2015年版)で更新

久宝寺事業センター

3. サイトデータ(2021年1月～12月の実績)

INPUT

エネルギー使用量	原油換算 KL	801
水使用量	万m ³	1.2

OUTPUT

エネルギー起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,295
----------------------------	-------------------	-------

排出ガス	主要ばい煙発生施設		—		
	項目	単位	規制内容	規制値	測定値
	SO _x	—	ばい煙発生施設なし		
	NO _x	—			
ばいじん	—				

排水量	合計量	万m ³	1.0
汚濁負荷量	COD	kg/年	—
	窒素	kg/年	—
	りん	kg/年	—

排水	放流先	項目	単位	末端排水口	
				規制値	測定値
公共用水域		pH	最小値, 最大値	—	—
		BOD	mg/l	—	—
		COD	mg/l	—	—
		窒素	mg/l	—	—
		りん	mg/l	—	—
		六価クロム	mg/l	—	—
		鉛	mg/l	—	—
		COD総量規制値	kg/日	—	—
		窒素総量規制値	kg/日	—	—
		りん総量規制値	kg/日	—	—
下水道		pH	最小値, 最大値	5.7～8.7	7.2, 7.7
		BOD	mg/l	300	10
		COD	mg/l	—	—
		SS	mg/l	300	3

廃棄物排出量	t	70
再資源化率	%	99.0

VOC排出量	t	—
--------	---	---

PRTR法対象物質集計結果

単位: kg/年

政令 No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	場外移動	下水道
—	届出対象なし	—	—	—	—	—	—

※ 拠点ごとの年間取扱量が1t(特定第1種は0.5t)以上の物質について集計

久宝寺事業センター

4.環境トピックス

- ① クーリングタワー水質管理の変更により上水使用量を削減しました。
上水年間削減量:26t
- ② 再使用可能な木製パレットの有価物化により木くず廃棄量を削減しました。
木くず年間削減量:3.0t

5.環境コミュニケーション

- ① ボランティア花壇活動
久宝寺緑地公園の入口花壇の植え替えを実施しました。

	日付	参加人数
1.	2021年7月2日	14名
2.	2021年11月15日	14名



- ② EMS向上委員会
各環境改善グループ(職場単位で編成)の責任者による定期会議(3ヶ月に1回開催)での、事業所環境情報の共有、各グループ改善活動をフォローしました。